

作成日：2025 年 6 月 5 日

研究課題

「当院 ICU における早期栄養の実態調査・経腸栄養開始の妨げとなる要因の分析」に関する情報公開

1. 研究対象

・対象患者は、2024 年 11 月 1 日～2025 年 3 月 31 日までで ICU に 3 日以上入室している患者を対象とする。今回の研究では、消化器疾患は治療方針や経過に応じた早期栄養の開始に関する判断や実施が行われているため、消化器疾患患者（消化器外科・消化器内科の患者）は本研究の対象から除外する。

2. 研究の目的

ICU にはさまざまな重症患者が入室し、その多くは過大な侵襲をきっかけに代謝反応や異化亢進状態が急速に進展し、栄養障害に陥りやすい。また、低栄養状態は筋組織の喪失に繋がり、集中治療後症候(Post-Intensive Care Syndrome:PICS)の身体的障害に分類される ICU acquired weakness (ICU-AW) を助長すると考えられている。欧州静脈経腸栄養学会(ESPEN)、米国静脈経腸栄養学会(ASPEN)、日本静脈経腸栄養学会(JSPEN)のガイドラインでは、重症患者に対しておおむね 24 時間以内、遅くとも 48 時間以内には開始する早期栄養療法が推奨されている。これにより、栄養改善、消化管の生理的機能維持に伴い免疫能維持などが期待できる。2022 年度の診療報酬改定で早期栄養介入管理加算が新設されたことをきっかけに、当院 ICU では早期栄養に係る手順書（プロトコール）を用いて、栄養介入を行っている。しかし、実際の臨床現場では必ずしも早期栄養が実施されているとは限らず、患者の状態等のさまざまな要因が影響して導入が遅れる場合も散見される。また、早期経腸栄養の介入・開始を妨げる要因の実態を把握できていない。そのため、本研究では、当院 ICU に 3 日以上入室している患者に焦点を当て、早期に経腸栄養が開始しているのか、また開始が遅れる場合はどのような背景や理由があるのかを把握したいと考える。それにより、看護師が中心となって医師や栄養士と連携し早期栄養開始の協議・検討を促進することを目指したい。

3. 研究に用いる情報

情報収集には電子カルテを使用しデータを収集する。

（収集する情報は下記の通り）

年齢、性別、診療科、入室時病名、BMI、重症度（SOFA）、RASS、NRS、CPOT、ICU の滞在期間、入院期間、挿管期間、ノルアドレナリンの使用の有無（最大 $0.2 \mu\text{g}/\text{kg}/\text{min}$ 使用している患者）、鎮静剤使用の有無、ICU 入室時の栄養介入の有無と内容、検査値(CRP、Alb、TP)、経腸栄養の中止基準、消化器症状（下痢、便秘、胃管からの逆流）の有無、適

正エネルギー（簡易式）の項目に分けて Excel を使用しデータを集計する。

上記の臨床データを元に早期栄養介入群と非介入群の 2 群間で比較・分析を行う。分析には t 検定・ χ^2 検定を使用する。

4.研究組織

研究実施責任者：今村総合病院 ICU 看護師 内倉凌華

研究分担者：今村総合病院 ICU 看護師 長山そら 越口晋伍

中村倫丈 福留由香利

5.倫理的な配慮

- ・本研究で収集したデータは本研究以外では使用しません。
- ・収集したデータに関してはプライバシーや個人情報を固く守り漏洩しません。
- ・収集したデータは 3 年間パスワードをかけ保存し、期間満了を以って消去します。
- ・ご希望がある場合、他研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲で研究計画書及び関連資料を閲覧する事が出来ますのでお申し出ください。
- ・情報が当該研究に用いられる事について患者様、もしくは患者様の代理人の方にご了承頂けない場合には研究対象としません。その場合は当施設の担当者の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者様に不利益が生じる事はありません。

6.お問い合わせ先

- ・本研究に関するご質問がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

当施設の相談窓口

研究責任者（当施設）：今村総合病院 ICU 内倉 凌華

〒890-0064 鹿児島県鹿児島市鴨池新町 11-23

TEL：099-251-2221